

山上の楽園を持つ山 **会津駒ヶ岳**

実施日 平成 18 年 9 月 29 日～10 月 1 日(土～日)
 天候 薄曇
 リーダー 涌井 良明
 費用 交通費 6,600 円
 宿泊費 7,500 円 合計 14,100 円
 参加者 吉田正之、小池述史、涌井良明

計 3 名

コースタイム 登山口下駐車広場(5:35)朝食(6:00~15)休憩(7:08~15)休憩(8:14~20)駒の小屋(8:38~45)会津駒山頂(9:00~10)中門岳(9:40~10:02)駒の小屋(10:40~11:00)水場(11:42~50)登山口下駐車広場(12:30)

何とも素晴らしい景観に出会えた山だった。

かろうじてキャンセルを免れて実施できたがこれが大正解、まさに山上の楽園を満喫できた。参加いただいたお二人に感謝感謝です。

少人数のため、自動車を使うことにして、新宿集合で東北道西那須野から塩原温泉経由で桧枝岐村の今日の宿へ、早めに到着だったが明日に備えてアルコールも控えめにとっとと就寝です。

翌朝は 5 時半前に車で登山口への林道を進み、登山口直下の広場に駐車して歩行開始となる。天候は曇だがそれほど悪くないのがうれしい。登山道は急な階段から始まる、のっけから急登であるが、30 分も歩くと傾斜も緩くなるがこの先にはもう急登はない、道は登山者が多いことも



あるが広くしかも歩きやすいので、順調に高度を稼いで行く。樺の森から徐々に背の低いシラビソなどに替わり、所々視界も開けるようになり朽ちた木道のなごりがみられるとやがて現役の木道になる、駒の小屋が見えるとほぼ森林限界で、一気に別世界に突入する。東北らしいなだらかな山肌とそれを彩るデコレーションには思わず来てヨカッタねえ！緑と黄、橙に赤と巧みな配色を施した自然のみがなし得る芸術が展開している。登りの疲れなど無くなってしまおうご機嫌さで、首の運動を繰り返しながら駒の小屋に着く。



山頂へは駒の大池から更に伸びる木道を辿る、中門岳への巻道分岐から階段を登ると 2133m の山頂である。

新しい展望案内板が設置されているが、

今日は燧ヶ岳の特徴ある姿が見られる位で遠望は残念である。ここから北へ中門岳に向うがこれまで以上の美しいプロムナードが広がる、山上の高層湿原は一面草紅葉に染まり、そこに伸びる木道が程よいアクセントになり、所々に池糖を配したその光景は 場所、時期、天候など限られた条



件の時この場にいら

れることに感謝したい気分である。普段のツキの無さを取り返したような…なんのこっちゃ。

気分良く 30 分程で中門岳(この辺り一帯をいう)という奇妙な標柱のある池の畔に到着、のんびりと軽食とも昼食言える休憩をして山上の楽園を味わう。雲間から陽射しも漏れ、秋空を望むことも出来た。



駒の小屋への帰路左に駒から会津朝日岳方面に連なる稜線を眺めながら、

その昔雪の城郭朝日岳からこの会津駒ヶ岳まで縦走したことが思い出された、その時は真っ白な頂と山並みを踏破して辿



り着いた満足感に浸って下山したが、今日もまた違った意味の満足感に浸って下山出来そうである。

駒の小屋で一息して、名残惜しいが下りに掛かる、水場の休憩一回で、途中でツアー登山者を追い抜き、3 人で駆け下る。(駒の小屋～取付き階段は一般的に 2 時間半程度の設定だが、ナント！！コースタイムをご

覧あれ)こうして天候にも味方され、雨に遭うことも無く今回の歩きは無事終了、おまけに帽子事件？も無事解決し、渋滞にハマることも無く順調に帰京です、但し、車なので反省会は省略されました。アタリマエカ！！



吉田(正)さん、小池さん、山も歩きも素晴しかったですね、ありがとうございました。

(記・涌井 良明)